

夕張のたからもの

石炭細工

つくって、おくって、かざって

夕張市教育委員会

石炭細工について調べる

■概要

2024年2月、拠点複合施設りすたで「引っ越しを機に石炭細工をなげよう（＝捨てよう）と思う」とお話された方がいらっしゃいました。以前には市内にも数多く見かけられたものですが、年々その機会も少なくなっています。

石炭細工とは、目無炭で作成された細工物で、様々な文字や形が彫られました。目無炭は夕張でも真谷地炭鉱でしか採炭されない石炭で、柔らかいけれど破れにくい特性がありました。そして高カロリーなものです。この目無炭が採炭できる場所では、多くの炭鉱マンが昔から何かしら制作しました。中には一際技術的に優れた名工もいたそうです。

炭鉱操業当時は材料も手に入りやすく気軽に制作できましたが、今となっては環境が整わないと制作できない貴重なものといえます。そしてその壊れやすさや手ごろな大きさのものが多く捨てやすいことを考慮すると、今後見かけることはさらに少なくなることが予想できます。

このようなことから市教委では期間を設けて、今も残っている石炭細工について、どのようなものがあり、どうして今なおそこにあるのか調査することにしました。広報やりすた館内で周知し、りすたに持ってきてもらうか、お家やお店を訪問して写真に撮らせていただき、記録にしました。写真を贈っていただいたこともありました。

調査期間は令和6年3月～4月末日で、山口（学芸員）が担当しました。

■本冊子について

調査結果の分類にあわせて順番に撮影した石炭細工を掲載しています。この分類上、同じ場所で撮影した石炭細工が別のページにも掲載されているので、ご注意ください。

各石炭細工には、「名称／展示・保管場所／地名」を付記しています。名称欄にはその石炭細工を端的に表すことを書き、地名欄には石炭細工があった場所を書いています。これ以外に、持ち主による石炭細工にまつわる情報や思い出を付記しています。

目無炭ってめずらしいんだね！
みかくとキラキラ光って
まことに黒いダイヤだね！



■調査結果

協力いただいたのは、32 件 /42 名の方々でした。撮影させていただいた石炭細工の総数は約 100 点です。

彫られたもので分類してみると、(1) 言葉、(2) 模様、(3) 玉、(4) 立体造形、になりました。

彫られた言葉では、「寿」という言葉が最も多くあり、その次に「和」という言葉が多かったです。贈り物として贈りやすい言葉が好まれたため「寿」が最も多いようです。「和」は、産炭地の助け合い文化を象徴することから、好まれたことが推測できます。

模様だけが彫られたものは数が少なかったです。その模様は、既存のデザインや図案を模倣したものだと考えられるものが多数ありました。

玉は様々なところにありました。寿と書かれたものや台座に載っているものなど、玉だけでなく他の要素と組み合わせられたものが多数ありました。中には、まだ磨いている途中の物を持っている人もいました。

立体造形は、熊、亀、魚という生き物をかた形どったものが多かったのですが、酒器のおちょこを模したもののや将棋の駒を形どったものなど、制作が難しい、珍しいものもありました。

これ以外にも、厳密には石炭細工とは言えませんが、類するものとして炭鉱マンが形どられた記念品などもありました。

展示されていた場所としては、食堂の棚の上、自宅の棚の中や玄関、老人会館の一室など様々でした。自宅では棚の中など見えるところに置くよりも、押入の中や車庫の中など、しまわれていることが多くありました。しかしそのおかげか、状態のよい石炭細工を多数発見できました。もしかしたら、見えるところに飾ってあったものなどは、日光にあたって風化し、壊れてしまったのかもしれない。

調査に協力いただいた方々の 居住地分布

本町・・・2件
 末広・・・3件
 鹿ノ谷・・・1件
 若菜・・・1件
 清水沢・・・2件
 清水沢宮前町・・・1件
 清水沢清陵町・・・3件
 南部・・・2件
 南清水沢・・・8件
 沼ノ沢・・・1件
 真谷地・・・1件
 紅葉山・・・4件
 楓・・・1件
 岩見沢市（市外）・・・1件
 北広島市（市外）・・・1件　計 32 件

★市内全域からご連絡いただきました！
 りすが近いからか、南清水沢にお住まい
 の方が最多でした。





『寿・竹の絵』 / 食堂内 / 清水沢・駅前食堂

炭鉱の人がいっぱいいたから何個ももらって、何個も盗られてなくなっていった。



『寿・玉・梅の絵』 / 自宅玄関 / 清水沢清陵町



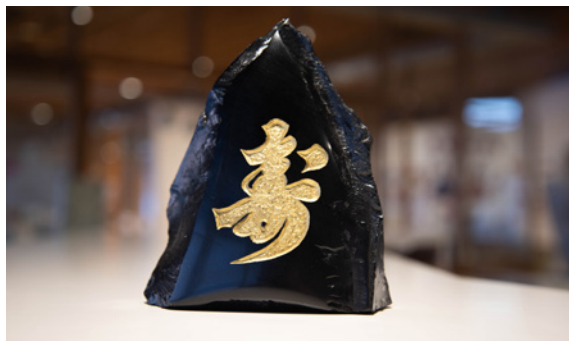
『寿・竹の絵』 / 自宅居間 / 未広

親が住んでいた場所に自分が引っ越してきたのが 20 年前ほどだが、その時には既にあった。
なぜあるのかは見当もつかない。父親は炭鉱で働いていたものの、興味はなかったと思う。

『寿』 / 自宅戸棚 / 南清水沢
いつ誰からもらったかはわからない。
りすたで撮影した。



『寿』 / 自宅戸棚 / 清水沢
夫がよく家に石炭を持ち帰って作っていた。家の中でつくと粉だらけになるから、外で作業した。
目無炭を使ったブローチなども制作して、5～6個プレゼントしてくれた。



『寿』 / 自宅 / 南清水沢
いつ誰からもらったかはわからない。
りすたで撮影した。



『寿・竹の絵』 / 自宅物置 / 南清水沢

持ち主は「やっぱり炭鉱だから事故もあるし、幸せにっちゅうか、歓びの字になる」という話をしてくれた。



『寿・梅や竹の絵』 / 自宅物置 / 南清水沢

持ち主はけんしょう炎になるほど、細工に集中して取り組んだという。

『盃に寿・竹の絵』 / 自宅戸棚

/ 紅葉山

夫がつくったものだという。

他にも多数あったが、まさか炭鉱が閉山になるとは思わず、みんなあげてしまったらしい。

かっぱらいも多く、誰か入ってきたのに音がしないな、と思っていたら、下駄箱にあった石炭細工がなくなっていたこともあった。



『寿・竹や梅の絵』 / 自宅戸棚 / 楓
住宅の近く、玄関外でよく作っている知
人がいた。器用な人がよく作っていた。
夫が楓坑で採炭の仕事をしており、も
らってきて作っていた。



『寿・七福神?』 / 自宅戸棚 / 楓

10 近所の人が色を塗り直してくれたため、鮮やかな金色のまま。塗らなければ日光で少しずつ黒ずんでしまう。



『和・心』 / 老人福祉会館 / 若菜

会館に寄贈されたもの。他の石炭細工と共に並んで展示されている。



『和』 / 自宅居間 / 紅葉山
知人からもらったもの。



『和』 / 食堂内 / 清水沢・駅前食堂



『和と玉』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町



『和』 / 自宅物置
/ 南清水沢



『和』 / 自宅戸棚 / 本町

12 持ち主自身が制作したもの。真谷地炭鉱で働いていたことがあり、火薬の箱いっぱい目無炭をもってきたこともあったという。

25 年以上前、引っ越しした際に楓出身の知人から記念として贈られたもの。



『福』 / 自宅戸棚 / 清水沢



『忍』 / 自宅 / 末広



『福』 / 自宅押入 / 清水沢清陵町
風化して半分に割れてしまった。



『忍』 / 自宅物置 / 南清水沢
石炭の表面を活かして、荒々しさをだしている。
大鵬関が書いた文字を利用した。

『松・竹・梅』 / 自宅戸棚 / 清水沢



『松竹梅』 / 自宅押入 / 南部

おそらく住宅を新築した際にもらったもの。

30年以上押入に置いてあった。

くるんであった新聞は 1991 年 8 月だった。





『静』 / 自宅納屋 / 南清水沢

30年以上ぶりに取り出してクリーニングした。



『志』 / 職場 / 南清水沢

知人からもらったもの。



『誠と龍』 / 自宅戸棚 / 末広

型紙や新聞の文字を切り抜いて使用し、制作していたという。
木工などと違って、技術はいらないからみんな作っていたという。



『観』 / 自宅 / 清陵町



『夕張の山陰に咲く花は優美』 / 自宅寝室 / 本町



『ふるさと夕張はすばらしき町』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町

本町にあった蕎麦屋「藤の家」にあったもので、店が閉店する際にもらったとのこと。

『石炭の歴史村』 / 自宅物置 / 南清水沢
当時使われていた字体をマネて工夫されている。



『夕張炭山』 / 自宅机の上 / 清水沢清陵町
おそらく、型紙などを使わず文字を彫っている。

『スーパー湖』 / 食堂内
/ 清水沢・駅前食堂
三菱大夕張鉄道で働いていた親族の形見
として譲り受けたもの。



『女性の後ろ姿』 / 自宅戸棚 / 楓



『家紋』 / 自宅 / 沼ノ沢



『家紋』 / 自宅戸棚 / 真谷地



『梅と鶴の絵』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町



『大志・山と鶴の絵』 / 自宅物置 / 南清水沢

初めて石炭細工をつくった時の作品だという。この後、持ち主は 100 個以上制作して、知人が転出する際に贈ったそう。



『磨かれる前の石炭』 / 自宅物置 / 清水沢清陵町



『磨かれた石炭の玉』 / 自宅物置 / 清水沢清陵町



『寿・玉』 / 自宅客間の棚の上 / 紅葉山

持ち主の兄が制作したもの。熊彫りもされていて、60年ほど前にお土産物として本町十字街のお土産屋にも品物として卸していたという。屋根屋だったが冬の間は屋根に登らないため、作る時間があつた。炭塊は楓坑から鞆につめて背負い、オートバイで運んだ。持ち主は、熊の顔を磨くことを担当しており、制作の最後に熊の鼻の部分をタバコの灰で磨いていたという。



『寿・玉』 / 自宅物置（集めた物が置かれている。） / 紅葉山

撮影にあわせて、農機具の上に置いてくれた。持ち主は昭和の物が好きで、様々なものを収集している。「うちの母ちゃんが一番古い、だから好きだ」と、冗談を交えて楽しそうに話してくださった。



『寿・玉』 / 自宅玄関 / 南清水沢

100 個以上制作したが、その中で最も注力したもの。大きさは調査した中で最大。楓坑が閉山してから再就職するまで、時間があったため、集中的に制作に取り組んだ。「寿」は一度彫ってから、石炭層以外の地層から採取した砂などにボンドを混ぜて埋め込んでいる。そのため、凹凸がない玉となっている。この作品だけは自信作であるため、30 年以上飾っているという。持ち主は清水沢炭鉱でも働いており、玄関には清水沢炭鉱の炭塊も一緒に並べられていた。



『玉』 / 自宅物置 / 南清水沢



『玉』 / 自宅玄関棚の上 / 末広



『玉』 / 自宅物置 / 南清水沢



『玉と寿』 / 自宅物置 / 南清水沢



『玉とひょうたん』 / 自宅戸棚 / 末広

持ち主が 1966 年に炭鉱に入る前から既に石炭細工はあって、自分でも作っていたという。風化しないようにラッカーを塗ったものもある。



『玉と忍』 / 自宅戸棚 / 末広

酒の席で酔っぱらうと、すぐに近くの人に配っていたこともあったという。



『玉と福』
/ 自宅戸棚
/ 末広

『玉』
/ 老人福祉会館
/ 若菜





『玉』 / 自宅戸棚 / 清水沢



『玉』 / 自宅戸棚 / 楓



『玉と和』 / 自宅戸棚 / 清水沢



『玉』 / 自宅戸棚 / 清水沢



『ひょうたん』 / 自宅戸棚
/ 紅葉山
炭鉱で働いていた誰かからもらったもの。



『王将』 / 食堂内
/ 清水沢・駅前食堂



『王将』 / 食堂内
/ 清水沢・駅前食堂

『ひょうたん』 / 自宅戸棚
/ 南清水沢
楓坑で退職を迎えた人にももらったもの。
撮影時、地域にあるものを活かすことの大切さを話してくださった。



『盃とひょうたん』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町



『将棋の駒』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町



『鮭』
/ 自宅物置
/ 清水沢清陵町



『小さな熊』 / 自宅物置 / 南清水沢



『親子亀』 / 食堂内 / 清水沢・駅前食堂



『熊』 / 自宅戸棚 / 末広

30 棚の奥に閉まわれていた。奥に入れておかないと、人に見られたら出さなきゃならなくて、壊れることもある、と話してくれた。



『熊』 / 自宅床の間 / 清水沢宮前町
自作の熊で、キュートな顔が特徴！



『熊』 / 自宅戸棚 / 紅葉山
持ち主の夫の友人から、昔もらったものだという。左ページの石炭細工と比べると、台座の形や毛並みの彫り方など異なる点が多い。





『熊』 / 老人福祉会館 / 若菜

これらは石炭の色を利用して作られた「石炭工芸」や「石炭人形」とされたものです。石炭細工ではないですが、市内にあるものとして紹介します。



『石炭工芸』 / ダム管理所 / 南部

1983年の石炭の歴史村オープン時に制作された記念品。炭鉱閉山後の跡地を利用しているからか、「復興祈願」と背面に書かれている。



『石炭工芸』 / 自宅 / 末広

1980年ごろにあった無線機の大会の賞品。ヘルメットに、持ち主の無線に関する番号が書かれている。



『石炭工芸と石炭人形』 / 自宅棚の上 / 紅葉山

34 持ち主は平和鉦・新鉦の労働組合で働いていたこともあって、九州・福岡の三池炭鉦労働組合の友人に夕張の石炭工芸を贈ったところ、お返しとして右側2つの石炭人形が贈られてきたという。結束を示すように、並んで飾られていた。



『虎』 / 店舗内 / 本町



『北海道』 / 自宅 / 真谷地



『炭塊』 / 自宅物置 / 清水沢清陵町



『携帯ス炭下』 / 職場 / 南清水沢



『アクセサリー』 / 自宅 / 南清水沢



『炭塊』 / 自宅戸棚 / 清水沢

石炭細工があった場所



自宅戸棚 / 楓



自宅戸棚 / 末広



老人福祉会館 / 若菜

石炭博物館所蔵の石炭細工



あとがき

撮影中、「石炭細工に興味ない!」とおっしゃる方が多くいらっしゃいました。その話を聞いていくと、親が大事にしていたものが捨てる機会がなくなってしまうことや、知らぬ間に誰かが贈ってくれたため当たり前暮らしの場の中に浸透したことがわかりました。暮らしの場は自宅だけでなく、普段から利用される食堂や理髪店、会館なども含まれます。

このことは、石炭細工が炭鉱のあった時代には当たり前市内では普及していたことがよくわかるエピソードでもあります。そして、暮らしに浸透したものが30年以上の時を重ねても、浸透したまま保管されていくことを示すエピソードでもあります。

こうやって考えてみると、暮らしの場も1つのミュージアムのような役割を果たしています。ミュージアムには、資料が収集される時に大事だと考えられたものが収集されていきます。同じように、暮らしの場もその時大事なものが収集されていきます。

まちの中で灯りがつく家々や商店など、どこもすばらしいミュージアムようです。こんなにすばらしいミュージアムがたくさんあるってすごいなあ、そんな気持ちにはなりませんか? 30年以上も残し続けていることに対して「ありがとう」という気持ちにもなりますね。

そして忘れてはならないのは、大事なものは石炭細工だけではないことです。ここにも!そこにも!つつい当たり前になって見落としがちなところに、こういった宝物はたくさんありそうです。(学芸員・山口)

発行日：令和6年8月6日

発行者：夕張市教育委員会

編集・デザイン：山口 一樹

※掲載している石炭細工は持ち主・管理者から撮影・掲載の許可を得ています。

一方で、制作者が不明が多く、制作者の方には許可を得られませんでした。

このことについて、もしお気づきのことがあれば、夕張市教育委員会までご連絡ください。



おたくと光るものは、
たくさんありそう!!
さびしきおまつり

